

ケアポート板橋 特養3階

症例概要 利用者：80歳代後半 要介護度5

病名：認知症 脳梗塞後遺症【右片麻痺】 てんかん 大動脈便閉鎖不全 頸動脈硬化 脳膜炎（右上腕麻痺）

経過：平成13年よりケアポート板橋を20年間ご利用されていたが、令和4年5月下旬、コロナに罹患し1ヶ月の入院となる。病院では食事も食べられない状態であったが、ご家族の「最期はケアポート板橋に戻したい」という強い希望や、もう一度ご自分で食事を美味しく召し上がって頂きたく、チームで最期までご自分らしい生活と、笑顔を取り戻せた事例。

内 容

平成13年、ご本人が60代後半の時にケアポート板橋でのご利用開始となりました。最初は杖歩行されており、良くお話をされる方でありご本人のこだわりが強く、お召し物や使用になる物等、ご本人の要望がしっかりとされていたので、その希望に沿った形で、ご本人らしく、ご要望にお応えしながら生活を送られていました。

お食事を召し上がる時には、いつも「美味しいね」と目を見開いて喜ばれている方でした。大きな事故などはなく過ごされ、年齢を重ねるごとに緩やかに状態は低下。令和4年の4月頃より、段々と食事の摂取量が落ちて来られているご様子が見受けられていた所、5月半ばにフロアにて発生したコロナクラスターにより、ご本人も罹患され入院となりました。

病院では食事を殆ど召し上がる事が出来ず、誤嚥の為左胸水も溜まっている状態で、1ヶ月程入院が続いてしまいました。ご家族の希望としては「最後は慣れ親しんだケアポート板橋で過ごして貰いたい」、「フロアでももう一度お食事を召し上がって欲しい」という願いを頂き、何度も病院のMSWと情報交換を重ね、7月前半にお看取りを前提とした受け入れを行いました。

帰園されてから気力・体力の低下が顕著であり、ベッド上での生活を余儀なくされました。離床のタイミングをOT・看護・介護で検討し、ティルト式車椅子の角度やテーブルの調整を行うことで、ご自分でスプーンを持って食事を召し上がって頂くことができるまでに回復。その際、「美味しいね」と以前と変わらない笑顔を見ることができております。

しかし、食事の摂取量はどうしても多くはない為、ご本人の希望される「ミートボールが食べたい」への対応は時間、タイミングを問わず、楽しみとしての食事を管理栄養士と共に実施して参りました。

令和4年8月初旬にケアポート板橋での20年という生活に幕を下ろされております。

最期までこちらのお声掛けに、以前と変わらぬ笑顔で答えて下さり、ご家族も最期をケアポート板橋迎えることができ良かったですとお声を頂いております。特養はご利用者にとっての「家」であり、我々のご家族の様に親身になることができる存在です。長年過ごして頂いたご利用者が、最期もケアポート板橋で迎えることができることは職員としても施設としても誇らしく思えると共に、今回学ばせて頂いたことを次に繋いでいくことが使命であると考えます。

最期までご利用者が変わらぬ笑顔を見せて下さるケアを、今後も続けていけるよう精進してまいりたいと思います。